

吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

清楚系熟女が自ら志願！

飢えたマ○コに極太チンポをぶち込まれ

恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ

それから何度か打ち合わせをし、奥様の希望を尊重する形で企画担当が企画をまとめていった。

書類等で改めて見ると、奥様はおっとりとした風貌でとても性欲を持て余しているようには見えない、上品な和風美人。趣味は生け花とお茶とのこと。

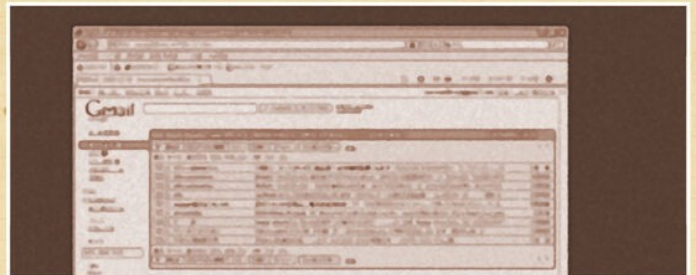
そんな奥様のご希望のセックス・メニューは

- 黒人によるギャバン・セックス。
- 容赦ないアクメ地獄。
- 淫語、マゾ責め。
- 監督は山岡コーテッロー。

といったものだった。

勿論奥様に実際そんなセックスの経験はなく、浮気もしたことがないという。性体験的にはごくごく普通の奥様なのだが長年の欲求不満で、妄想だけが膨らんでしまっているのがこの際に一気に解消してしまい、このソフトが販売されればそれも夫婦生活の一助になれば、という算段もあるのだそうだ。

そして撮影当日。ご夫婦がそろって上京、スタジオ・イン。お二人の希望で、旦那様は撮影を、そばで見守っていただく形になった。



2014年春、当社企画部に一通のメールが届いた。それは当社の「女優応募フォーム」から送信されたものだった。

内容を見てみると、驚いたことに送り主は近畿在住のとあるご夫婦で旦那様からの、奥様をAVに出演させて欲しいという依頼だった。

もちろんこのような企画の作品は世の中に沢山存在するがその殆どはフェイクであり、実際にそのような応募があることはこの仕事をそれなりの年月続けている担当者にとっても稀なことだった。

担当者はすぐにメールで折り返し、電話で連絡。イタズラでないことを確認した。

話を聞いてみると、どうやらご夫婦は当レーベルのディープなファンだという。特にガチンコ素人投稿ものが大のお気に入りによく二人でご覧になっているとの事。

有難い限りである。

その後、事情をお伺いしたところどうやら二人はかなりの年の差婚らしく今年45歳になる奥様に、60間近の旦那様はここ数年性欲が追いつかず、何年も満足させきれなかったそう。そんな中、代償行為のように見ていた当レーベルのAVに実際出演してみたいという願望が日増しに強くなっていったそうだ。そんな思いを思い切って旦那さんに打ち明けた奥様。旦那様は悩んだ末、自らにも責任の一端はあることからとうとうOKしたそうだ。



改めまして、この度はご応募ありがとうございます。

「こちらこそ、ありがとうございます。」

あちらでご主人が見守られていますか。

「はい、少し緊張してます。」

ではまず、自己紹介からお願いします。

「京都で小さい酒屋を運営させてもろてます、あやめと申します。」

あやめさん。おいくつですか？

「今年でもう45になりました、あ、もうこれ、カメラ回ってますの？」

はい。

「・・・すごく緊張します。」

リラックスして下さいね。まずは応募の動機は。

「主人がずっともう、セックスができひんようになってしまいました。慰めに、AVいうんですか？二人で見えるようになって。その流れでインターネットなんかも見るようになって。会員制のサイトなんかも。そしたらおたくさんの作品が・・・恥ずかしいんですけど、すごく興奮してしまいました。」

気に入っていただいてありがとうございます。

「いえいえ、それで、何年もそんなみてるうちに、妄想が止まらへんようになってきてしもて・・・。うちみたいな普通の、もう女として盛りを過ぎたようなものでもあんなふうにいやらしくなれるもんやろか・・・て思うようになりまして。」

ええ。

「年齢的にも、おたくさんの作品にはうちとそう変わらへんような歳の女性が沢山出てはりましたから、段々羨ましくなって・・・。それで思い切って、旦那にお願いしてみました。」

伺ってます。奥さんは、黒人の男優が希望だそうですね。それでは入ってもらいましょうか。

「・・・え？」



いかがですか？お気に召して頂けましたか？

「……………あ、え、ええ……………その……………」

お気に召さない？

「いえ、そないなことは……………でも、突然すぎて目のやり場に困ってしても……………」

そうですか？そう言いながら、ざっきからチラチラ目線でチンポを追っているの、しっかりカメラで捉えていますよ。

「そ、そんな……………」

旦那さん、モニタ見ていかがですか？

(追ってますね、と離れた場所から返答。)

「それは……………こんなもの凄いの、目の前に突き出されたら、誰でも見てしまいますやん……………」

では、まずはご希望の一つ目は合格と。

「ご、合格です……………ああ、凄……………これで……………」

これでどうなりたいんですしたっけ？奥さん。

「あ……………あの、ビデオで見た女の人みたいに、メチャクチャにされて狂ったみたいにイきまくりたいんです……………」

……………最近はあまり、イってらっしゃらない？

「……………それは……………その……………」

ではまず、最初に身体をほぐしてからにしましょうか。奥さん、こちらの部屋にお越し下さい。

「はい……………」

そして、我々は台本どおり、セックスよりもまずこの長年快感を忘れていた熟れた肉体を完全に開かせるため予定通り隣の部屋へと移動した。



ビー—————ン……………。
複数の機械の振動音が、部屋に響き渡る。
体中にプラスチック製の、ピンク色の卑猥な器具を貼り付けられたまま
自由を奪われた熟妻が、まるで糞虫のようにもぞもぞと
部屋の中央で吊り下げられたまま悶えている。

「ひい、い、あ、ああああっ……………」

久しぶりのセックスでしょうから、まずは感覚を取り戻してもらうために
肉体と脳を活性化させましょう。奥さんにはアイマスクをしてもらって
自分の世界に没入してもらいます。
……監督から趣旨と説明がなされる間も、熟妻は久々の感覚に悶える。

「あ、あ、あ！これ……撮られてますのん……？ああ、うちのこんな
惨めな姿、撮られてもうてますのん……？」

ええ、とてもよく撮れてますよ。

「ああ、凄い、こんないやらしい姿……………あ、あかん、いく、いく！」

「あ、い、いくううううううううう！」

ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！

うん、イきましたね。でもまだ硬いかな。
もう少しこのまま……………奥さん、リラックスして、何回イってもいいですからね。

「ああ、そんな……………こんなん、こんな生殺し酷すぎますっ！
もう、ひと思いにさっきのんでして下さいっ！」

奥さん、ウチのビデオのファンなんでしょう？ウチのビデオでは
さっきの、なんてヌルいワード使っていましたっけ？

「あ……………あ……………」

ファンならもう一度。ウチの女優ならどんな風に振舞うか、しっかり妄想を
働かせて下さいね。リハーサルなんかないんですよ？これには。

「あ……………さ、さっきの、黒人さんの……………」

黒人さんの？

「ああ、黒人さんの、極太黒チンポでトドメ刺して下さい！ああ、！
う、うち、ぬ、言うてもうたあ……………！」

ふふ、よく言えました、でもまだまだダメです。
このままそうだな、30分くらい放置してみましようか。

「ああ、そんな、酷い……………あ、お、いくっ！またいくっ！おおっ！」

そうして、45歳の肉体にはいささかキツイ
目覚めのアクメだったが、その後奥様は30分で8回ほど
このピンク色の玩具に強制的に絶頂を与えられ続けた。



「うもッ、う、んぶううううッ！」

30分も強制アクメの末お預けを喰らったあやめさんの眼前に、とうとうお待ちかねの黒人の極太ペニスが突き出された。熟妻はまるでそれが初めての不貞とは思えないようながっつき方で一気に頬をくぼませて頬張った。旦那が見ている前で、最初からこうしたのでは、許可を得ているとはいえ当然旦那の視線が気になりこっちはいかなかっただろう。じっくりと30分、無機質な機械の振動で無理やりにその飢えた肉体をこじ開けたことにより、圧倒的に理性の入る隙間を狭めたのである。このあたりは、監督もしてやったりといったところだろう。

「ん、ん、お。おいひい、おいひいッ……………」

「ああ、もう三年ぶりやわ、こんな硬く反り立ったおチンポ……………」

味はいかがですか？

「すごい味します…………お、雄の…………獣の味がします……………」

嫌じゃないですか？

「ああ、は、恥ずかしい…………全然、嫌じゃないんです…………これ…………こ、興奮して、さっきからずっと、オツユが止まらしませんのです……………」

凄いですね、体臭の違いがあるから、最初は苦手な女性もいるみたいですが、見た目と違って奥さんは肉食系なんですわね。

「ああ、言わんといて…………こんな、こんな恥ずかしいところ撮られたら、うち……………」

そういいながらも、奥さんのフェラチオは止まらない。どこで覚えたのか、バキュームフェラまで披露。もし妄想だけでここまでタマってたのだとしたら、この奥さんこんな上品そうに見えて、相当な好きモノだ。

「ん、ん、んんん……………」

片足を蟹股に上げ、大男の上に跨り巨大なペニスをまるで大好物を与えられた動物のように嬉しそうに吸い上げていく。さっきまで上品そうに見えた目元は、だらしなく歪み下品な牝のケダモノそのものになっている。



後ろから両足をつちりと抱えられ、びしょ濡れの秘部を大男にさらけ出され、そこに先程のピンクローターとは比べ物にならない卑猥な動きをする男根型の玩具をずっぽりと咥え込まされ熱妻はさらに激しく悶えていた。

「おひ、あ、あ、き、きくううう〜〜〜〜ッ！」

奥のスイートスポットをじっくりとほじくり返され苦悶の表情を浮かべながらも、腰はしっかりと、急所を捻りながら掘り返す、その卑猥な器具に合わせて、ねっとりとうねらせている。むわりとした淫臭がそこから立ち上り、雄達の劣情を加速させている。

「はあ、はあ、すごい、き、気持ちいい……………」

大分いいマンコになって来ましたねえ、どうですか？セックスいたくなって来たんじゃないですか？

「し、したいです……………！オメコしたい……………ッ！」

旦那さんが見てらっしゃいますけど？

「ああ、あなた、お願い、そんなに見んといて……………」

もちろん旦那さんはそんな奥さんの姿から目を離そうとしない。数年ぶりのセックスで、ゆっくり作り変えられる妻の肉体を食い入るように見つめている。

「お、あ……………あひッ……………んおッ！」

さっきから、奥さん、随分下品な声が漏れてますね。旦那さん、元々奥さんはこんなふうには野生的なセックスをされる方なんですか？

(声が入らないように話しているが、旦那さんはゆっくり首を振り否定するようなジェスチャーをしている。)

「あ、だ、だって、主人の前でこんな下品な姿、見せられませんもん……………」

ご主人とのセックスではできないことも、AVでは出来ちゃうんですか？

「だ、だって、こんないやらしいセックスされたら、女なら誰だって……………おうッ！」

それはつまり、ご主人のセックスはいやしくなかつた？

「そ、そないな意味やありません……………あ、そ、そこッ……………！そこほじらんといてッ……………あ、お、おうッ！」

ふふ、調子出てきましたね、奥さん。それじゃあもっと素直になれるように、こうしてあげましょうか。



びたんっ・・・・・・・・・・！！

三本の巨根が、熟妻を取り囲む。
唾液とカウパー氏腺液が混ざり合った凄まじい雄の淫臭が、たちまち45歳の熟女を中心にして、ドーム状に充滿する。

「あ・・・・・・・・あ・・・・・・・・こ・・・・・・・・んな・・・・・・・・！！」

熟妻の舌は、ごくごく自然に、蛇のようにその大好物の真っ黒な果実に向かっていやらしく伸ばされたが、あと一息のところまで届かず、もどかしそうにまるでシャドウ・ボクシングの如く虚しく空を切っている。

「はあ、はあ、すごい臭い・・・・・・・・お、オスの・・・・・・・・におい・・・・・・・・！！」

どうですか？少しは素直になれそうじゃありませんか？

「素直やなんて、そんな・・・・・・・・。」

だって、さっきからずっと、チンポに当たりもしないのに、奥さんの舌はもどかしそうに空を切ってるじゃありませんか。ねえ、ご主人。

旦那さんは黙って妻のその惨めな姿を食い入るように見つめている。

この御馳走が欲しいなら、しっかり本性を出してくださいね。
小娘みたいに恥ずかしがったまま、中途半端にするセックスを惰性で撮影するほど、僕たち暇じゃないんです。

「ああ・・・・・・・・ほ、本性やなんて・・・・・・・・！！」

ドスケベな奥さんの本性を丸出しにして交尾したらいいんですよ。
正直に言ってください。旦那さんとはそういうセックスをしましたか？

「ああ、し、してませんっ！してませんっ！主人とはそんな・・・・・・・・
こ、交尾やなんて、そないに言えるようなセックス、したことありませんっ！！」

はつきり言えっ！交尾したいかっ！？

「ああ、し、したいっ！交尾したいっ！ああ、ごめんなさい、あんたっ！
うち、もう我慢できひんのっ！こんな御馳走チンポ目の前に出されたらっ！
ずっと我慢してたのっ！もうオモチャでオナニーじゃ満足できひんのっ！
したいっ！交尾したいっ！極太チンポとガチ交尾したいっ！あああっ！！」

観念したように、熟牝が絶叫した。
三本の中から好み的一本を選び、数年ぶりに、その熟れた穴に
ゆっくりとチンポが押し当てられる。
貞淑な妻を演じていたら、一生啜え込むことのなかったであろう
浅黒いペニス、他人の妻の秘裂を、無慈悲にゆっくりと
押し拡げていった。



「おおおおおおおうっ……………」

堰を切ったように、熟妻の口からは、その貞淑な風貌から想像できないようなケダモノじみた声が漏れ出した。

奥さん、とうとう堪え切れなくなっちゃいましたね。

「ああ、ご、ごめんなさい、堪忍してっ！あなた、こ、こんなうちと違っ……んおおおおおおおおおッ！！」

ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！

野獣のようなピストンが始まるや否や、空々しい言い訳をするあやめさんの言葉はさえぎられ、その野獣のピストンにふさわしい牝のケダモノの喘ぎ声が漏れ出す。

「うおッ！おッ！おッ！んおおおおッ！」

「ひい、お、奥ッ！キッ……え、えぐられるッ！おうッ！」

ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！

腰から崩れそうな熟妻の肉体を、半ば無理やり抱え上げ若く逞しい雄の獣は、さらに角度をつけ、上から串刺しにする。

「あがッ……おうッ！おうッ！おうッ！おうッ！」

まるでオトセイみたいですね、こんな奥さんを見るのは初めてですか？

(旦那さんがゆっくりと頷く。)

「こ、こんな、信じられへん、うち、こんな女ヤッ……うおおおッ！」

相当タマってたんですね、いくら相手がワイルドだからってここまでとは……。意図せずでしょうが、何年も旦那さんが奥さんを焦らしていたようなものですからね。その上AVまで見せてあてられて、奥さん一気に崩れちゃったみたいですね。

「ああ、そうなんっ!? そうなんっ!? これ、うちだけのせいと違うのんっ!?」

勿論、奥さんの本性に、色んな状況が重なった結果ですよ。こんな素敵な偶然、なかなかありませんから、しっかりこの機会に楽しんで下さいね。

「ああ、あなた、いい!? うち、楽しんでいい!」

旦那さんがゆっくりと頷く。それを見るか見ないかの瞬間に、一気に熟妻の理性が決壊した。

「んおおお、もう、交尾しちゃうッ！今日はメチャクチャに交尾するッ！」



ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！

二本のペニスが上下から打ち付けられる。
狂ったように吠えながら、熟妻は、気をやりそうところを
ギリギリで我慢しながら、その瞬間を待つ。

奥さん、我慢しますね。もうずっとイキそうじゃないんですか？

「まだッ！い、今いったら、中途半端にッ……ああ、でもッ……！
イきたい、イきたいッ！ああ、はようッ……お願い、もう堪忍してッ！」

どうしたいんですか？

「一緒にッ！一緒にイきたいッ！射精でイカされたいッ！ああッ！
こんなん、うちのひとにもお願いしたことないのにッ！」

ザーメンでイきたいんですね。

「おおおおお！ザーメン！ザーメンッ！欲しいっ！若いオスの
濃いザーメン欲しいのッ！ああッ！許してあんたッ！
だって牝の本能なんやもんッ！強い牡の精子欲しいッ！」

ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！

その声を聞いてか、牡二匹がビッチを上げる。
極太のペニスでサンドイッチにされながら、熟れた牝はその肉体で
野獣の交尾を必死で受け止めている。

「お、く、来るッ！チンポ膨らんでッ……あ……あ……あ……！」

ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！

二匹の牡が吠えた瞬間、一気に大量のザーメンが放出される。
受け止めきれない精液は、そのまま熟妻の秘所から溢れ
周りに飛び散りほとぼしる。

「おう……お……うおおおおおおおおおッ！！！」

その雄達に負けないほどの獣の断末魔が、熟れた牝の口から発せられた。

残りの精液をゆっくりと種付けされながら、びくびくと腰を震わせ
あやめさんは交尾の余韻に浸っていた。



-----その後。

本来持っていた獣の本性を覚醒させてしまった彼女は当然のようにセックスの味が忘れなくなってしまったようで数ヵ月後、正式に当レーベルからAV女優としてデビューすることになった。

旦那さんは相変わらずセックスが弱いらしいが、そんな旦那さんがAVデビューするための唯一の交換条件が、撮影中の彼女を撮影したメイキングビデオを必ず自分用に作って欲しいというものだった。ハンディカムで撮影した簡素なその映像だが、売り物にはできない生々しい痴態が収録されていて、それを見た日だけは旦那さんは別人のようにあやめさんの肉体を求めて来るそうだ。

最近では本気セックスしかしない彼女の魅力に気付いた一部の熟女マニアにも「吉野あやめ」の評判は上々で当レーベルでも中堅以上のコアな人気を誇るまでになった。全編ガチイキで、しかも作を重ねるごとに開花するマゾ性がファンのニーズにマッチしているようだ。また、彼女の代名詞であるアクメ時の獣のような本気声もそのしっとりとした普段の容貌からはイメージできないギャップでこれまた一部の熟女マニアに好評だそうだ。

次回作はギャルのコスプレをして、街中デートからじっくりセックス、出来ればナンパまでしてみたいと企画している。

「男優の男の子たちも、うちくらいになると年下のコも多いから若いコたちにあないに凄く交尾されて、めちやくちやに吠えさせられて泣きながら、おばちゃんのおまんこに本気で種付けして下さい、やなんて懇願させられるのは、今でもほんまに、顔から火が出るくらい恥ずかしいんです・・・でも、やつてるときは、本気で欲しいし、男のコのおチンポに屈服させられる瞬間が、本当に気持ちいいんです。」

あやめさんの本領は、まだまだこれからかもしれない。

吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

清楚系熟女が自ら志願！

飢えたマ○コに極太チンポをぶち込まれ

恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ

それから何度か打ち合わせをし、奥様の希望を尊重する形で企画担当が企画をまとめていった。

書類等で改めて見ると、奥様はおっとりとした風貌でとても性欲を持って余しているようには見えない、上品な和風美人。趣味は生け花とお茶とのこと。

そんな奥様のご希望のセックス・メニューは

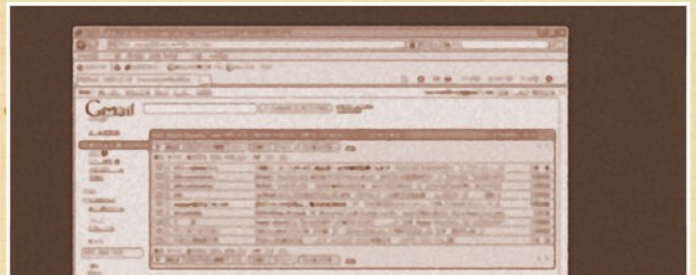
- 黒人によるギャバン・セックス。
- 容赦ないアクメ地獄。
- 淫語、マゾ責め。
- 監督は山岡コーテッロー。

といったものだった。

勿論奥様に実際そんなセックスの経験はなく、浮気もしたことがないという。性体験的にはごくごく普通の奥様なのだが長年の欲求不満で、妄想だけが膨らんでしまっているのがこの際に一気に解消してしまい、このソフトが販売されればそれも夫婦生活の一助になれば、という算段もあるのだそうだ。

そして撮影当日。

ご夫婦がそろって上京、スタジオ・イン。お二人の希望で、旦那様は撮影を、そばで見守っていただく形になった。



2014年春、当社企画部に一通のメールが届いた。それは当社の「女優応募フォーム」から送信されたものだった。

内容を見てみると、驚いたことに送り主は近畿在住のとあるご夫婦で旦那様からの、奥様をAVに出演させて欲しいという依頼だった。

もちろんこのような企画の作品は世の中に沢山存在するがその殆どはフェイクであり、実際にそのような応募があることはこの仕事をそれなりの年月続けている担当者にとっても稀なことだった。

担当者はすぐにメールで折り返し、電話で連絡。イタズラでないことを確認した。

話を聞いてみると、どうやらご夫婦は当レーベルのディープなファンだという。特にガチンコ素人投稿ものが大のお気に入りによく二人でご覧になっているとの事。

有難い限りである。

その後、事情をお伺いしたところどうやら二人はかなりの年の差婚らしく今年45歳になる奥様に、60間近の旦那様はここ数年性欲が追いつかず、何年も満足させきれなかったそう。そんな中、代償行為のように見ていた当レーベルのAVに実際出演してみたいという願望が日増しに強くなっていったそうだ。そんな思いを思い切って旦那さんに打ち明けた奥様。旦那様は悩んだ末、自らにも責任の一端はあることからとうとうOKしたそうだ。



改めまして、この度はご応募ありがとうございます。

「こちらこそ、ありがとうございます。」

あちらでご主人が見守られていますか。

「はい、少し緊張してます。」

ではまず、自己紹介からお願いします。

「京都で小さい酒屋を運営させてもろてます、あやめと申します。」

あやめさん。おいくつですか？

「今年でもう45になりました、あ、もうこれ、カメラ回ってますの？」

はい。

「・・・すごく緊張します。」

リラックスして下さいね。まずは応募の動機は。

「主人がずっともう、セックスができひんようになってしまいました。慰めに、AVいうんですか？二人で見えるようになって。その流れでインターネットなんかも見るようになって。会員制のサイトなんかも。そしたらおたくさんの作品が・・・恥ずかしいんですけど、すごく興奮してしまいました。」

気に入っていただいてありがとうございます。

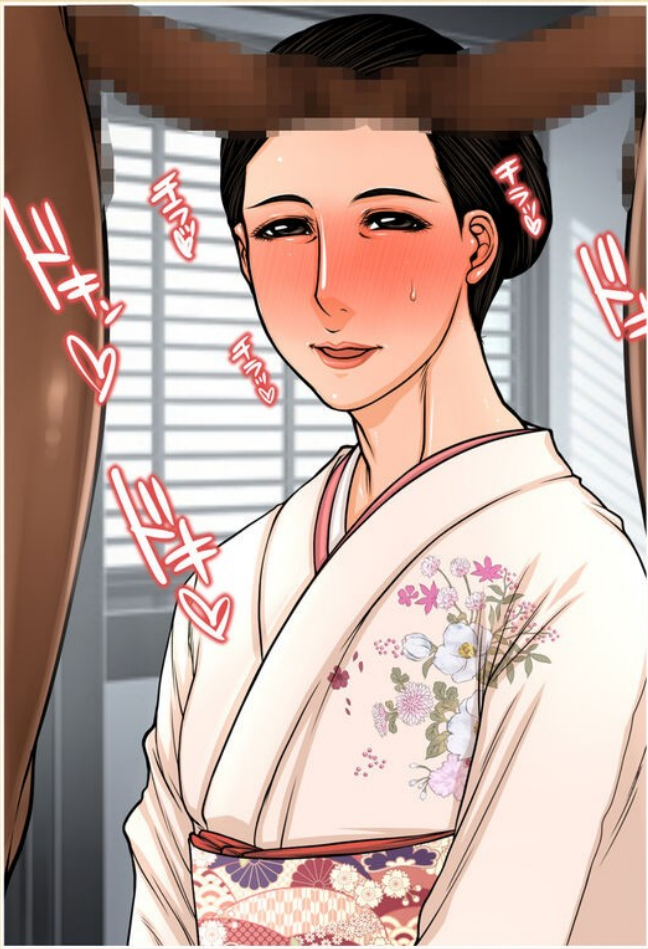
「いえいえ、それで、何年もそんなみてるうちに、妄想が止まらへんようになってきてしもて・・・。うちみたいな普通の、もう女として盛りを過ぎたようなものでもあんなふうにいやらしくなれるもんやろか・・・て思うようになりまして。」

ええ。

「年齢的にも、おたくさんの作品にはうちとそう変わらへんような歳の女性が沢山出てはりましたから、段々羨ましくなって・・・。それで思い切って、旦那にお願いしてみました。」

伺ってます。奥さんは、黒人の男優が希望だそうですね。それでは入ってもらいましょうか。

「・・・え？」



いかがですか？お気に召して頂けましたか？

「……………あ、え、ええ……………その……………」

お気に召さない？

「いえ、そないなことは……………でも、突然すぎて目のやり場に困ってしても……………」

そうですか？そう言いながら、ざっきからチラチラ目線でチンポを追っているの、しっかりカメラで捉えていますよ。

「そ、そんな……………」

旦那さん、モニタ見ていかがですか？

(追ってますね、と離れた場所から返答。)

「それは……………こんなもの凄いの、目の前に突き出されたら、誰でも見てしまいますやん……………」

では、まずはご希望の一つ目は合格と。

「ご、合格です……………ああ、凄い……………これで……………」

これでどうなりたいんですしたっけ？奥さん。

「あ……………あの、ビデオで見た女の人みたいに、メチャクチャにされて狂ったみたいにイきまくりたいんです……………」

……………最近はあまり、イってらっしゃらない？

「……………それは……………その……………」

ではまず、最初に身体をほぐしてからにしましょうか。奥さん、こちらの部屋にお越し下さい。

「はい……………」

そして、我々は台本どおり、セックスよりもまずこの長年快感を忘れていた熟れた肉体を完全に開かせるため予定通り隣の部屋へと移動した。



ビー—————ン……………。
複数の機械の振動音が、部屋に響き渡る。
体中にプラスチック製の、ピンク色の卑猥な器具を貼り付けられたまま
自由を奪われた熟妻が、まるで糞虫のようにもぞもぞと
部屋の中央で吊り下げられたまま悶えている。

「ひい、い、あ、ああああっ……………」

久しぶりのセックスでしょうから、まずは感覚を取り戻してもらうために
肉体と脳を活性化させましょう。奥さんにはアイマスクをしてもらって
自分の世界に没入してもらいます。
……………監督から趣旨と説明がなされる間も、熟妻は久々の感覚に悶える。

「あ、あ、あ！これ……………撮られてますのん……………？ああ、うちのこんな
惨めな姿、撮られてもうてますのん……………？」

ええ、とてもよく撮れてますよ。

「ああ、凄い、こんないやらしい姿……………あ、あかん、いく、いく！」

「あ、い、いくううううううううう！」

ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！

うん、イきましたね。でもまだ硬いかな。
もう少しこのまま……………奥さん、リラックスして、何回イってもいいですからね。

「ああ、そんな……………こんなん、こんな生殺し酷すぎますっ！
もう、ひと思いにさっきのんでして下さいっ！」

奥さん、ウチのビデオのファンなんでしょう？ウチのビデオでは
さっきの、なんてヌルいワード使っていましたっけ？

「あ……………あ……………」

ファンならもう一度。ウチの女優ならどんな風に振舞うか、しっかり妄想を
働かせて下さいね。リハーサルなんかないんですよ？これには。

「あ……………さ、さっきの、黒人さんの……………」

黒人さんの？

「ああ、黒人さんの、極太黒チンポでトドメ刺して下さい！ああ、！
う、うち、ぬ、言うてもうたあ……………！」

ふふ、よく言えました、でもまだまだダメです。
このままそうだな、30分くらい放置してみましようか。

「ああ、そんな、酷い……………あ、お、いくっ！またいくっ！おおっ！」

そうして、45歳の肉体にはいささかキツイ
目覚めのアクメだったが、その後奥様は30分で8回ほど
このピンク色の玩具に強制的に絶頂を与えられ続けた。



「うもッ、う、んぶううううッ！」

30分も強制アクメの末お預けを喰らったあやめさんの眼前に、とうとうお待ちかねの黒人の極太ペニスが突き出された。熟妻はまるでそれが初めての不貞とは思えないようながっつき方で一気に頬をくぼませて頬張った。旦那が見ている前で、最初からこうしたのでは、許可を得ているとはいえ当然旦那の視線が気になりこっちはいかなかっただろう。じつくりと30分、無機質な機械の振動で無理やりにその飢えた肉体をこじ開けたことにより、圧倒的に理性の入る隙間を狭めたのである。このあたりは、監督もしてやったりといったところだろう。

「ん、ん、お、おいひい、おいひいッ……………」

「ああ、もう三年ぶりやわ、こんな硬く反り立ったおチンポ……………」

味はいかがですか？

「すごい味します…………お、雄の…………獣の味がします……………」

嫌じゃないですか？

「ああ、は、恥ずかしい…………全然、嫌じゃないんです…………これ…………こ、興奮して、さっきからずっと、オツユが止まらしませんのです……………」

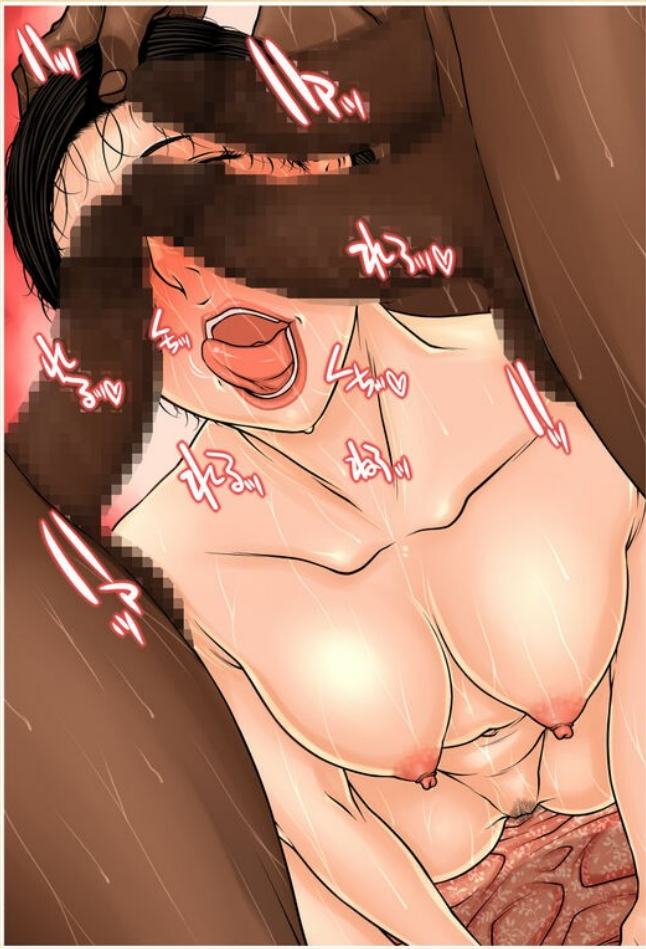
凄いですね、体臭の違いがあるから、最初は苦手な女性もいるみたいですが、見た目と違って奥さんは肉食系なんですわね。

「ああ、言わんといて…………こんな、こんな恥ずかしいところ撮られたら、うち……………」

そういいながらも、奥さんのフェラチオは止まらない。どこで覚えたのか、バキュームフェラまで披露。もし妄想だけでここまでタマってたのだとしたら、この奥さんこんな上品そうに見えて、相当な好きモノだ。

「ん、ん、んんん……………ッ！」

片足を蟹股に上げ、大男の上に跨り巨大なペニスをまるで大好物を与えられた動物のように嬉しそうに吸い上げていく。さっきまで上品そうに見えた目元は、だらしなく歪み下品な牝のケダモノそのものになっている。



びたんっ・・・・・・・・！！

三本の巨根が、熟妻を取り囲む。
唾液とカウパー氏腺液が混ざり合った凄まじい雄の淫臭が、たちまち45歳の熟女を中心に、ドーム状に充滿する。

「あ・・・・・・・・あ・・・・・・・・こ・・・・・・・・んな・・・・・・・・！！」

熟妻の舌は、ごくごく自然に、蛇のようにその大好物の真っ黒な果実に向かっていやらしく伸ばされたが、あと一息のところまで届かず、もどかしそうにまるでシャドウ・ボクシングの如く虚しく空を切っている。

「はあ、はあ、すごい臭い・・・・・・・・お、オスの・・・・・・・・におい・・・・・・・・！！」

どうですか？少しは素直になれそうじゃありませんか？

「素直やなんて、そんな・・・・・・・・。」

だって、さっきからずっと、チンポに当たりもしないのに、奥さんの舌はもどかしそうに空を切ってるじゃありませんか。ねえ、ご主人。

旦那さんは黙って妻のその惨めな姿を食い入るように見つめている。

この御馳走が欲しいなら、しっかり本性を出してくださいね。
小娘みたいに恥ずかしがったまま、中途半端にするセックスを惰性で撮影するほど、僕たち暇じゃないんです。

「ああ・・・・・・・・ほ、本性やなんて・・・・・・・・！！」

ドスケベな奥さんの本性を丸出しにして交尾したらいいんですよ。
正直に言ってください。旦那さんとはそういうセックスをしましたか？

「ああ、し、してませんっ！してませんっ！主人とはそんな・・・・・・・・
こ、交尾やなんて、そないに言えるようなセックス、したことありませんっ！！」

はつきり言えっ！交尾したいかっ！？

「ああ、し、したいっ！交尾したいっ！ああ、ごめんなさい、あんたっ！
うち、もう我慢できひんのっ！こんな御馳走チンポ目の前に出されたらっ！
ずっと我慢してたのっ！もうオモチャでオナニーじゃ満足できひんのっ！
したいっ！交尾したいっ！極太チンポとガチ交尾したいっ！あああっ！！」

観念したように、熟牝が絶叫した。
三本の中から好み的一本を選び、数年ぶりに、その熟れた穴に
ゆっくりとチンポが押し当てられる。
貞淑な妻を演じていたら、一生啜え込むことのなかったであろう
浅黒いペニス、他人の妻の秘裂を、無慈悲にゆっくりと
押し拡げていった。



「おおおおおおおうッ……！！」

堰を切ったように、熟妻の口からは、その貞淑な風貌から想像できないようなケダモノじみた声が漏れ出した。

奥さん、とうとう堪え切れなくなっちゃいましたね。

「ああ、ご、ごめんなさい、堪忍してッ！あなた、こ、こんなうちと違ッ……んおおおおおおおおおッ！！」

ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！

野獣のようなピストンが始まるや否や、空々しい言い訳をするあやめさんの言葉はさえぎられ、その野獣のピストンにふさわしい牝のケダモノの喘ぎ声が漏れ出す。

「うおッ！おッ！おッ！んおおおおッ！」

「ひい、お、奥ッ！キッ……え、えぐられるッ！おうッ！」

ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！ズポッ！

腰から崩れそうな熟妻の肉体を、半ば無理やり抱え上げ若く逞しい雄の獣は、さらに角度をつけ、上から串刺しにする。

「あがッ……おうッ！おうッ！おうッ！おうッ！」

まるでオトセイみたいですね、こんな奥さんを見るのは初めてですか？

(旦那さんがゆっくりと頷く。)

「こ、こんな、信じられへん、うち、こんな女ヤッ……うおおおッ！」

相当タマってたんですね、いくら相手がワイルドだからってここまでとは……。意図せずでしょうが、何年も旦那さんが奥さんを焦らしていたようなものですからね。その上AVまで見せてあてられて、奥さん一気に崩れちゃったみたいですね。

「ああ、そんなんっ!?そんなんっ!?これ、うちだけのせいと違うのんっ!?」

勿論、奥さんの本性に、色んな状況が重なった結果ですよ。こんな素敵な偶然、なかなかありませんから、しっかりこの機会に楽しんで下さいね。

「ああ、あなた、いい!?うち、楽しんでいい!」

旦那さんがゆっくりと頷く。それを見るか見ないかの瞬間に、一気に熟妻の理性が決壊した。

「んおおお、もう、交尾しちゃうッ！今日はメチャクチャに交尾するッ！」



「はあ、はあ、はあ。」

いやー、凄かったね奥さん。
こっち目線下さい。

「あ、はひ・・・」

ついでにVサインも。
はい、びーす。

「び、び〜す・・・♪」

それから、3人の男に7発と
嫉妬に狂った旦那さんに一発
合計8発の牡の子種を浴び
大満足のあやめさん。
腰は痙攣で役に立たず
しばらくザーメンまみれのまま
ベッドの上で脱力している
有様だった。

「はあ、はあ、すごい・・・
こんなセックスがあったや
なんて・・・。」

満足していただきましたか？
うちも久しぶりに、いい画が
撮れました。

「ああ、恥ずかしい・・・。
カメラの前でない
本性出さされるやなんて。」

ご主人も大興奮でした。
意識してあんな言葉を
ご主人にかけていたんですか？

「いえ、もう無我夢中で
何を言っていたかも、殆ど
覚えてないです・・・。」

じゃあ、本音なのかも
しれませんね。

「あら・・・でも
そうかもありませんね。」

そういつてにやりと笑う
彼女の目元は、確かに
数時間前とは別人になっていた。



-----その後。

本来持っていた獣の本性を覚醒させてしまった彼女は当然のようにセックスの味が忘れなくなってしまったようで数ヵ月後、正式に当レーベルからAV女優としてデビューすることになった。

旦那さんは相変わらずセックスが弱いらしいが、そんな旦那さんがAVデビューするための唯一の交換条件が、撮影中の彼女を撮影したメイキングビデオを必ず自分用に作って欲しいというものだった。ハンディカムで撮影した簡素なその映像だが、売り物にはできない生々しい痴態が収録されていて、それを見た日だけは旦那さんは別人のようにあやめさんの肉体を求めて来るそうだ。

最近では本気セックスしかしない彼女の魅力に気付いた一部の熟女マニアにも「吉野あやめ」の評判は上々で当レーベルでも中堅以上のコアな人気を誇るまでになった。全編ガチイキで、しかも作を重ねるごとに開花するマゾ性がファンのニーズにマッチしているようだ。また、彼女の代名詞であるアクメ時の獣のような本気声もそのしっとりとした普段の容貌からはイメージできないギャップでこれまた一部の熟女マニアに好評だそうだ。

次回作はギャルのコスプレをして、街中デートからじっくりセックス、出来ればナンパまでしてみたいと企画している。

「男優の男の子たちも、うちくらいになると年下のコも多いから若いコたちにあないに凄いい交尾されて、めちやくちやに吠えさせられて泣きながら、おばちゃんのおまんこに本気で種付けして下さい、やなんて懇願させられるのは、今でもほんまに、顔から火が出るくらい恥ずかしいんです・・・でも、やつてるときは、本気で欲しいし、男のコのおチンポに屈服させられる瞬間が、本当に気持ちいいんです。」

あやめさんの本領は、まだまだこれからかもしれない。

吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

清楚系熟女が自ら志願！

飢えたマ○コに極太チンポをぶち込まれ

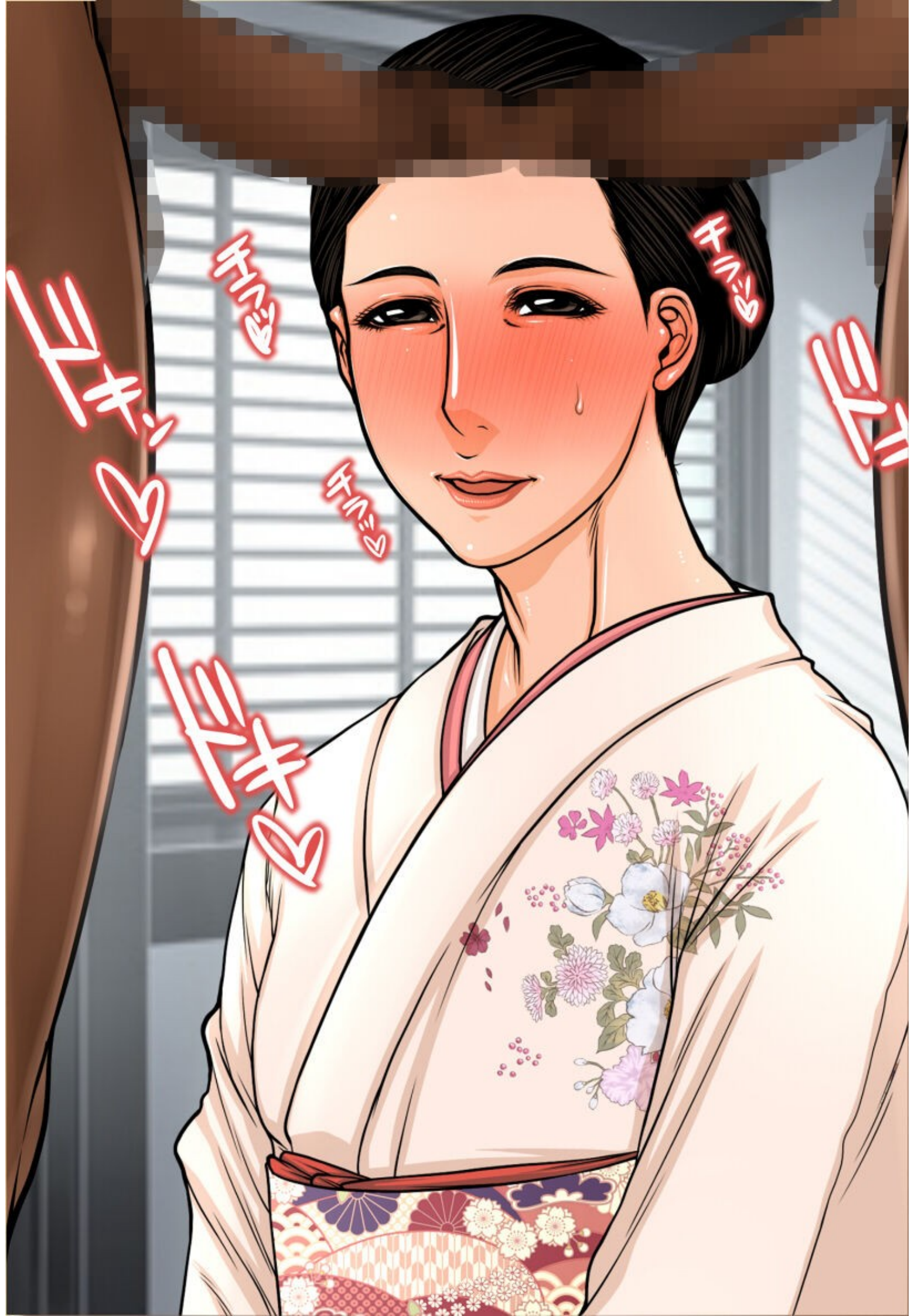
恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

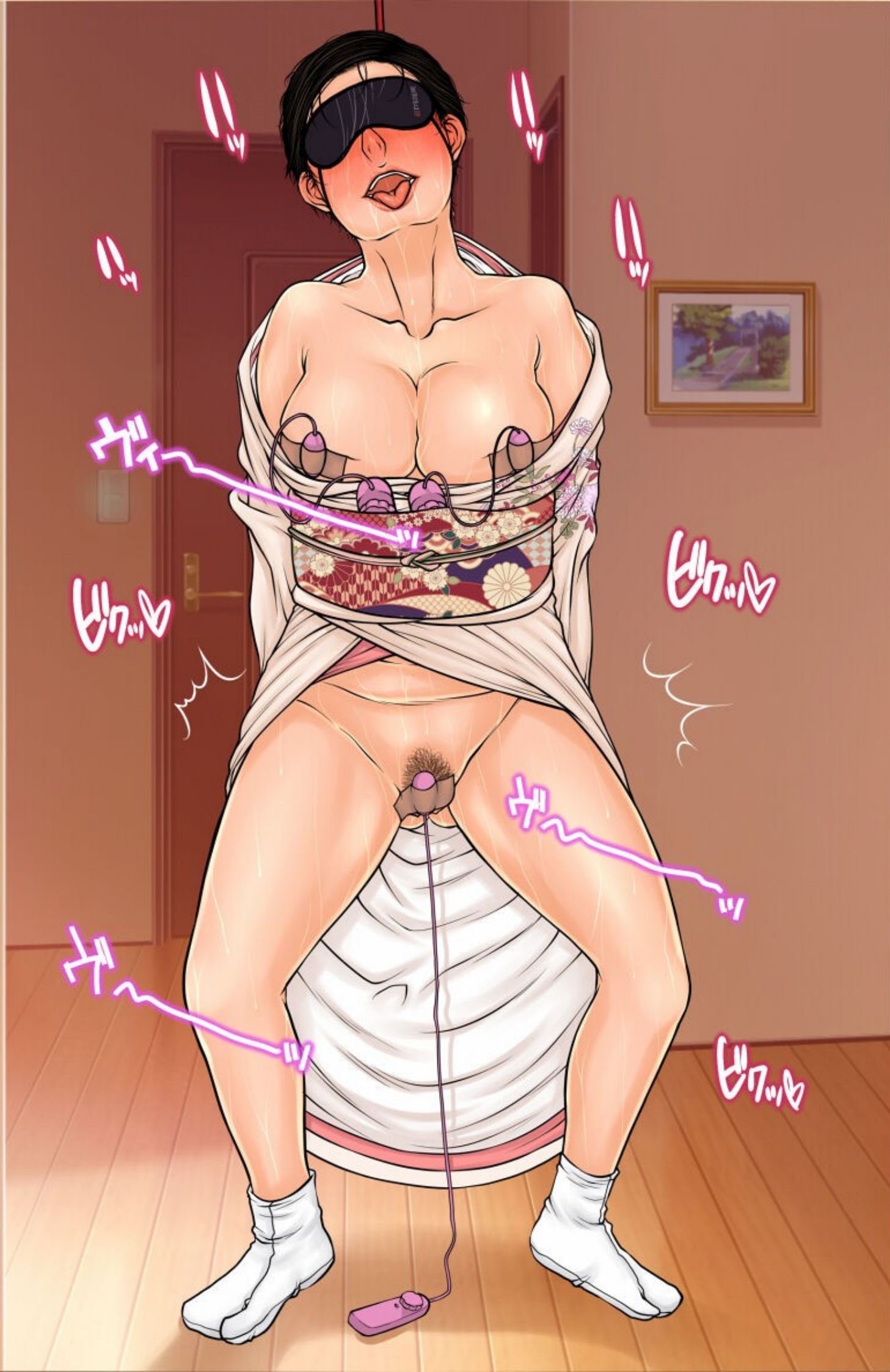
勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ









Red scribbled text and symbols near the top left corner.

Red scribbled text and symbols near the woman's hair.

BECK

Red scribbled text and symbols near the top right corner.

... and other red scribbled text and symbols.

Red scribbled text and symbols on the woman's shoulder.

Red scribbled text and symbols on the dark top.

Red scribbled text and symbols on the woman's back.

Red scribbled text and symbols at the bottom left.

